

光永 勇 × スペシャル対談

話題の政治家に聞く!!



2002年8月、全国勝手連・連合会の光永勇会長が国土交通省の大臣室を訪ね、扇千景国土交通大臣(当時)とのビッグ対談

元 国土交通大臣

扇千景

現在につながっている
少女の頃の夢と
宝塚時代の経験

■ 光永 これまで、週刊誌、月刊新聞、インターネットテレビと色々やって来ましたが、もう少し形に残るものを作って、情報誌を出す事にしました。その一番最初に、大臣にご登場願ったわけです。

■ 扇 それはそれは、おめでとうございます。勝手連のみなさん方にとつては、待ちに待った情報誌になりますね。みなさんとお付き合いさせていただいている私も、嬉しく思います。

■ 光永 ありがとうございます。さて、大臣にはちょっと政治から離れていただいて、宝塚時代の事を振り返っていただこうと思います。タカラジェンヌになるのが夢だったのですか？

■ 扇 宝塚に入ったのは、私の人生にとって計算外の事でした。本当は、高校

を卒業する時点で神戸大学の建築学部を志望していたのですが、父親に大学は女子大じゃないと駄目だと反対されましてね。ちょうど反発する年頃でもあつて、友人たちと相談して女だけの学校がいいのなら宝塚に行こうと。そして、試験を受けたら通ってしまったんです。

■ 光永 じゃあ、女性だけの学校という理由で宝塚に入られたわけですか？

■ 扇 そうなんです。ですから私の人生、父親のひと言で変えられちゃった(笑)。しかも宝塚に行くと言ったら、今度は勘当だと言うのです。結局、母が内緒で行かせてくれたのですが、何の予備知識もなく入学したので猛勉強しましたよ。それで、舞台が早く聞けたという事です。

■ 光永 意外に、と言つては失礼ですが、陰で努力されるタイプなんですね。

■ 扇 意地でも頑張ろうと思いましたが、毎日お弁当を2つ持つて始発電車で出かけ、日本舞踊、バレエ、音楽、演劇、すべての個人レッスンを受けて最終電車で帰ってくる、そんな勉強の仕方でした。公園でお弁当を食べたりしてね(笑)。

■ 光永 先ほど、建築学部を志望していたと言われましたが、では建築家を目指していたのですか？

■ 扇 設計図や見取り図を見るのが好きだったんです。建築家というより室内装飾師、今でいうインテリア・デザイナーになれたらいいな、なんて思っていました。

■ 光永 それが建設大臣に、そして国土交通大臣に。何かつながりを感じませんか？

■ 扇 そそこが不思議なんですよ。大臣



写真左より沖縄の豆記者引率者山本氏、保守党・扇千景代表(当時)、関西勝手連 連合会・上野代表(当時)と全国勝手連連合会・光永勇会長



なんて、私が自分で選んだわけじゃありませんが人生、分らないものでね。

自己犠牲の覚悟がなければ絶対に 勇氣は生まれません

■光永 実は、この雑誌のタイトルを「勇氣」とも考えたのですが、大臣にとって勇氣とは何でしょう。

■扇 勇氣というものは、自己犠牲が前提になければ出てこないと思います。私自身、陸海空6万8千人もの職員を抱える国土交通省、それに海上保安庁、気象庁という大組織のリーダーとして、いつでも自分が責任を取るのだと思つています。その覚悟がなければ、勇氣ある決断もできません。

■光永 それを聞いて思い出しました。大臣が選挙の時にあれだけ頑張られたのは、まさに勇氣だったんですね。支援してくれるだろうと思つていた方々にも割と冷たい部分があつて僕もあれつと思つたのですが、そんな状況の中で、雨が降ろうが、人が少なからうが、大臣が先頭に立つて説得されていった。あれは本当に自分を犠牲にしなから訴えていたんだなあ、今改めて思います。

■扇 自分は何もしないで、人にどうしろとは言えませんからね。私は、自己犠牲こそ勇氣の原点だと思つています。

■光永 その事を若い人たちに伝えるとしたら、大臣ならどのように言いたいですか。

■扇 世界中に飢えている人たちが何百万人もいる現実を、まず知って欲しいという事です。我々の世代は戦後の苦

しい時期を経験していますから、人に助けられて今の自分があるのだと思えますよ。でも、今の若い人たちはハンダリーというものを経験してませんから、自分たちが、どれほど豊かな国にいるか、その自覚さえないので。まずその事を自覚し、自分が豊かな分だけ人に奉仕する勇氣、愛を分かち与える勇氣を持つてもらいたい。そこにはある程度自己犠牲が伴いますが、元氣な若者が一食ぐらい抜いたつて死にません。けれども一食抜いた分のお金を募金で集めたら、どれだけ多くの人を世界中で救われるだろうか、と考えてみて欲しいのです。

21世紀の担い手 たちに勝手連の 精神を伝えて欲しい

■光永 最後に、大臣が今後の勝手連に期待される事がありましたら、お聞かせ下さい。

■扇 勝手連のみなさんは、その時、その時の判断で、これが一番正しいと思つた方向に進んで行かれますよ。みんなで協議して、これで行くかと決めたら一致団結して行動する。しかも、後で何の代償も求めない。その生きざまの良さ、潔さが私はすごいと思うのです。風のようにやつて来て、激動の嵐を巻き起こし、そして静かに去って行くという、このスタイルは世界に例を見ないですよ。そこには光永会長が努力して来られた積み重ねがあると

いますが、その垣根を取り払った活動・スタンスは、本当に貴重だと思つています。

■光永 僕らは、飲みに行くのもノンセクトなんです(笑)。

■扇 なるほどね。でも冗談じゃなくて、そのスタイルで21世紀を先取りなさつたと思うのです。これからも「勝手連流」を貫いて、将来の日本と世界を支えていく若者や、子供たちにボランティア精神、平和を願う心が育つよう導いていただきたいと思つています。

■光永 今、勝手連が計画している事の一つに、子供たちの国際交流があります。いわば子供サミットですが、これは海外から子供たちを招いて、子供たちだけで語り合う場を作ろうという運動で、ほぼ1年かけてやるつもりです。

■扇 素晴らしい計画ですね。ぜひ成功させてください。

■光永 こちらこそ大臣の今後のご活躍に期待しています。本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。

プロフィール

扇 千景

おおぎ ちかげ



1933年兵庫県生まれ。女優(元宝塚歌劇団娘役)、タレント、政治家。本名、林 寛子(はやし ひろこ)。旧姓、木村(きむら)。兵庫県神戸市出身。参議院議員(5期)、参議院議長(第26代)、国土交通大臣(初代、第2代)、建設大臣(第69代)、運輸大臣(第78代)、北海道開発庁長官(第72代)、国土庁長官(第36代)、保守党党首(初代)を歴任。旭日大綬章受章、女性初桐花大綬章受章。靖国神社崇敬奉賛会第3代会長。